

前回の大学院部会後の大学院部会審議まとめ(素案)に対する委員からの意見

※ページ番号は大学院部会(第90回)資料1-1 審議まとめ(素案)(とけ込み版)

【五神委員からの意見】

- P.53(卓越大学院プログラム)の記述に関して以下のとおり修正。

(卓越大学院プログラム)

国は、これまでの政策により蓄積された人材や研究の強みを活かし、引き続き真に持続性のある高度博士人材育成プログラムとしての「卓越大学院プログラム」を通じて、各大学の優れた取組を支援するべきである。

(略)

国は、「卓越大学院プログラム」を、これまでの蓄積を活かしつつ、知識集約型社会における機関支援型の人材育成プログラムとして、各大学が安定的に若手研究者を支援できるよう抜本的に見直すとともに、5年刻みの補助事業から脱却した恒久的な博士課程大学院制度として定着させ、我が国に残された強みを伸ばすという観点から、その在り方をよりよいものとしていくとともに、個別プログラムの取組に終始させることなく、我が国全体の大学院改革、すなわち大学院システム全体の見直しや各大学院における教育改革の加速化につなげていくことが求められる。

<理由>

「卓越大学院プログラム」は、大学院重点化により大学院が量的に拡大した一方、学生の博士課程離れや教員の負担増加が進み、新たな価値創造を担うべき博士課程人材が細ってきているという問題意識の下、時限付きの補助事業から脱却し、大学院博士教育強化の恒久的な仕組みを定着させるべく、博士人材を「知のプロフェッショナル」と位置付け、日本の学術の維持発展に加え、新たな社会づくりを主導する人材を博士として育成する「卓越大学院」を形成するべきとして、2015年の大学院部会において委員として構想を提言した。2015年の「未来を牽引する大学院教育改革(審議まとめ)」においても、卓越大学院構想として「大学院生に対する支援を世界水準とし、安定的に運用できる財源構造を構築する」旨提言されている。

対象となる4領域(①国際的優位性、卓越性を有する領域、②文理融合、学際、新領域、③新産業の創出に資する領域、④世界の学術の多様性確保への貢献が期待される領域)は、高等教育の最高レベルの教育として、トップを伸ばす、日本の学術の継承、世界の中で日本ならではの貢献を示す、また新しい産業創成において、優秀な博士が貢献すべき分野をきちんと支えるということを狙いとしており、4領域の博士をバランスよく日本全体として育成していくことが重要。

また、これまでの補助金におけるプログラム毎の提案では時限事業による支援がモデ

ルチェンジを繰り返す中で、予算維持のために、プログラムの再設計を繰り返すことになり、現場の教員の負担も大きい。それぞれの大学が提案する複数の学位プログラムを大学として総合的に支え、恒久化するための方策を明確に示していくことが求められる。

これまでの補助金によって繰り返し行われてきた有限期間の博士プログラムの反省から、真に持続性のある高度博士人材育成プログラムとして、「卓越大学院プログラム」がよりよいものとなるように抜本的に見直しを行い、高度な研究力を維持発展させる人材育成機能を補強していくことが急務である。

【川端委員からの意見】

- SDGs について内容を盛り込むのであれば、同時に「知のプロフェッショナル」が倫理的な素養上のレベルで身に着けるべきものとして、ELSIについても加えるのがよいと思います。

【佐久間委員からの意見】

- 審議まとめの表題について

「体質改善」という言葉は、確かに、審議まとめの表題としてはやや軽い感じがしないわけではありません。また、「体質改善」すれば「健康体」になるわけですが、プラスの方向への変化とはいっても、マイナスの状態がプラスマイナスゼロの状態になるだけでも、積極的、抜本的な改革というイメージにはならないかもしれません。

しかし、その一方で、「体質改善」という言葉には、内側から全体の状態を総体としてよくしていくというイメージもあります。今回の審議まとめには、当然、体質改善のための様々な施策に対する言及もありますが、関係者の意識が変わらなければ、それらの施策が実を結ぶこともないわけですから、その意味では、「体質改善」という言葉は的を射た表現であるとも言えるかと存じます。

ただし、副題との呼応を考えると、「体質改善」で終わるのではなく、「体質改善方策」のように、何らかの言葉をつけた方がよいかもしれません。

副題については、部会でもご意見がありましたが、「需要に応える」ということだと確かに受動的な感じがします。より能動的な文言の方が良いので、例えば「「知のプロフェッショナル」を育てる新時代の大学院教育の実現に向けて」といったものが考えられるのではないのでしょうか。

- 前回（第90回）の部会の資料2の右下に※がありますが、この資料だけ見ると、どこにつながるかわからないように思います。※以下は必要でしょうか。